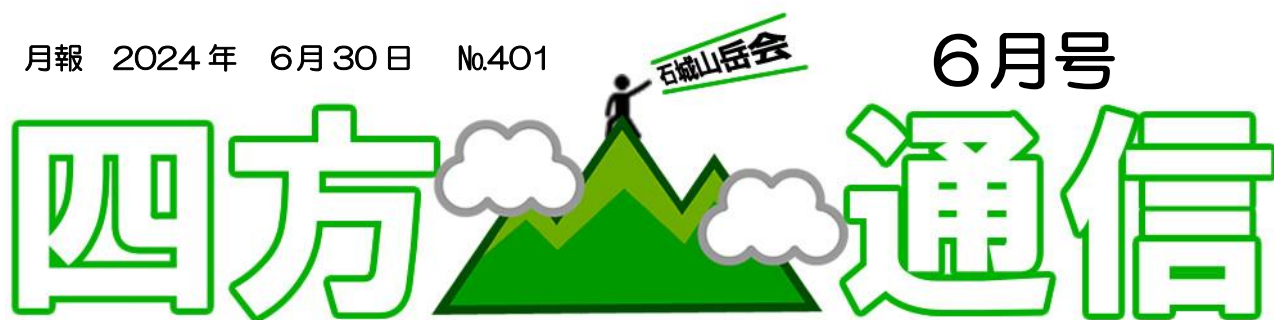


月報 2024 年 6 月 30 日 No.401

6月号



石城山岳会事務局編集

錫ヶ岳 (2388.2m)

男体山 (2,486m)

2024 年第三回登山教室「安達太良山」①

2024 年第三回登山教室「安達太良山」②

錫ヶ岳 (2388.2m)

2024 年 6 月 4 日 (火) 秋葉、松本 (恵)

栃木百名山・四天王の一座、錫ヶ岳を歩いてきました。

距離・標高差ともに長い日帰りコースの為、早朝 4 時半より歩き始めました。登山口は一番距離の短い金精峠登山口からです。金精山まではひたすら梯子あり、ロープありの急登となります。

金精山から五色山までは残雪が残っている箇所が所々ありましたが、軽アイゼンを使用することなく歩きました。

五色山まで登ると奥白根山の雄々しい山容と、眼下に美しい碧色の五色沼を眺めることが出来ます。奥白根山を右手に見ながら前白根山へ進みます。7 月になると、前白根山には紅いコマクサの群生を見ることが出来るのですが、コマクサの季節にはまだ早く、出始めの小さな株を横目に先を急ぎます。

避難小屋の分岐を過ぎてから先は、未踏のコース。まずは、白根隠山を目指します。



この白根隠山までの稜線は、本当に素晴らしかった。ダケカンバと高嶺桜の林を潜り抜けたら、どこまでも続く美しい稜線が続きます。秋葉さんと南アルプスに来たみたい！とウキウキしながら歩きました。

でも、白根隠山から先は四天王の本領発揮。白檜岳が近くにつれて膝丈だった笹が、太ももの高さになり登山道が不明瞭になっていきます。ピンクテープもあったり無かったりで、ルートを見つけながら進むのが大変でした。ただ、それよりも困ったのは朝露で濡れた笹です。ゲイター

を付けていたものの、腰のあたりまで茂った笹には無意味でした。朝露で濡れたズボンは冷たく、早めにレインパンツを履いておくべきだったと後悔しました。

2296m 峰から先は今までの笹道とはうって変わって樹林帯の登山道となります。等高線の緩い広い尾根道のため、ピンクテープや標識が無くなった途端に迷いやすくなり、何度かルートをロストする時がありました。樹林帯で展望もない分余計に迷いやすいと感じる箇所でした。

錫ヶ岳手前のコルに着いた頃から雨が降り出し、雨の中シャクナゲやシラビソの枝を潜りながら錫ヶ岳山頂へ到着。残念ながら雨とガスで展望は一切見えでしたが、無事に辿り着けた事に感慨ひとしおでした。

雨で体が冷え動いていないと寒かったので、お昼ご飯もそこそこに下山開始。帰りは来た道に戻るから迷うことはないだろうと思ったのですが、白檜岳の手前の笹で右往左往。白根隠山まで戻って来たときは、やっと明瞭な登山道を歩ける事にほっとしました (笑)

最後の金精山からの急な下りがかなり堪えましたが、無事に下山する事が出来ました。

今回 1 人では錫ヶ岳に登れなかったと思います。一緒に歩いて下さった秋葉さん、本当にありがとうございました。



【コースタイム】

金精峠登山口 4 : 24 → 金精山 5 : 33 → 五色山 6 : 45 → 前白根山 7 : 15 → 白根隠山 8 : 05
 → 白檜山 8 : 44 → 錫ヶ岳 11 : 14 → 白檜山 14 : 03 → 白根隠山 14 : 53 → 前白根山 15 : 52
 → 五色山 16 : 24 → 金精山 17 : 11 → 金精峠登山口 18 : 39

[休憩時間] 1 時間 11 分

[合計時間] 14 時間 15 分

(文責：松本(恵))

男体山（2,486m）

2024 年 6 月 5 日(水)

赤塚(将)(園)、国井、根本(翼)、永井

男体山は日光連山を代表する山で、山自体が信仰の対象となっており、入山料を払い、御守りを身に着けて登山。登山を怪我無く無事に終わられるようにと、その後家に帰るまでの交通御守りの両方を兼ねているのだそう。

日本百名山にもなっており、標高は 2,486m で山頂には日光二荒山神社奥宮がある。

朝 7 時半ごろに登山口駐車場に着いた時にはかなりの台数車が停まっており、人気の山なのだと知れる。

最初から急登が続き、心折れかけたところに 4 合目の作業道。普段、登山靴で舗装道を歩くのは足が痛くて苦手であったがこの山に関しては呼吸を整えなおすことができ、歩きながら足を回復させることができると感じた。

6 合目からはまた急登が続き、立ち止まって息を整えるというよりゆっくりでも足をすすませて鞭打つように登った。きつい中でも所々背後が開ける場所では眼下に中禅寺湖が望めたのでその景色で癒された。



水分補給だけではもたず、食べられる限り栄養とアミノ酸を摂取するのが大事だと身に沁みると同時に、なめていた自分に毒づく。

開始時点では快晴であったが、7 合目あたりからガスがかかり、山頂まで時々雲が切れたりまたかかったりの天候であった。

9 合目からは赤土のザレ場になり腿をあまり上げる必要もなくなり、頂上まで近いということもあり、足取りもかなり軽快に。

戦場ヶ原もなんとか雲の切れ間に見ることができた。

山頂の奥宮に手を合わせ、御神剣の立つところへ行き各々好きなポーズで写真撮影。山頂についてしまうと一気に汗が冷え体温が奪われるので急いで着込んで温かいスープを飲みながら昼食にありつく。

昼食後、山頂より少し歩い

たところにある太郎山神社に足を向け、軽くお参り、その後慎重に下山。

すでに足があまり言うことを聞かず、登りはもちろん、下りは更に手足の使い方が大事だと痛感。下るのに苦戦している方々の脇を先に進ませていただきながら難しい山なのだと感じた。

登山口まで下りてきて背後に見上げた男体山にはしっかり雲がかかっており、また絶景を望むためにリベンジしなければならない山となってしまった。

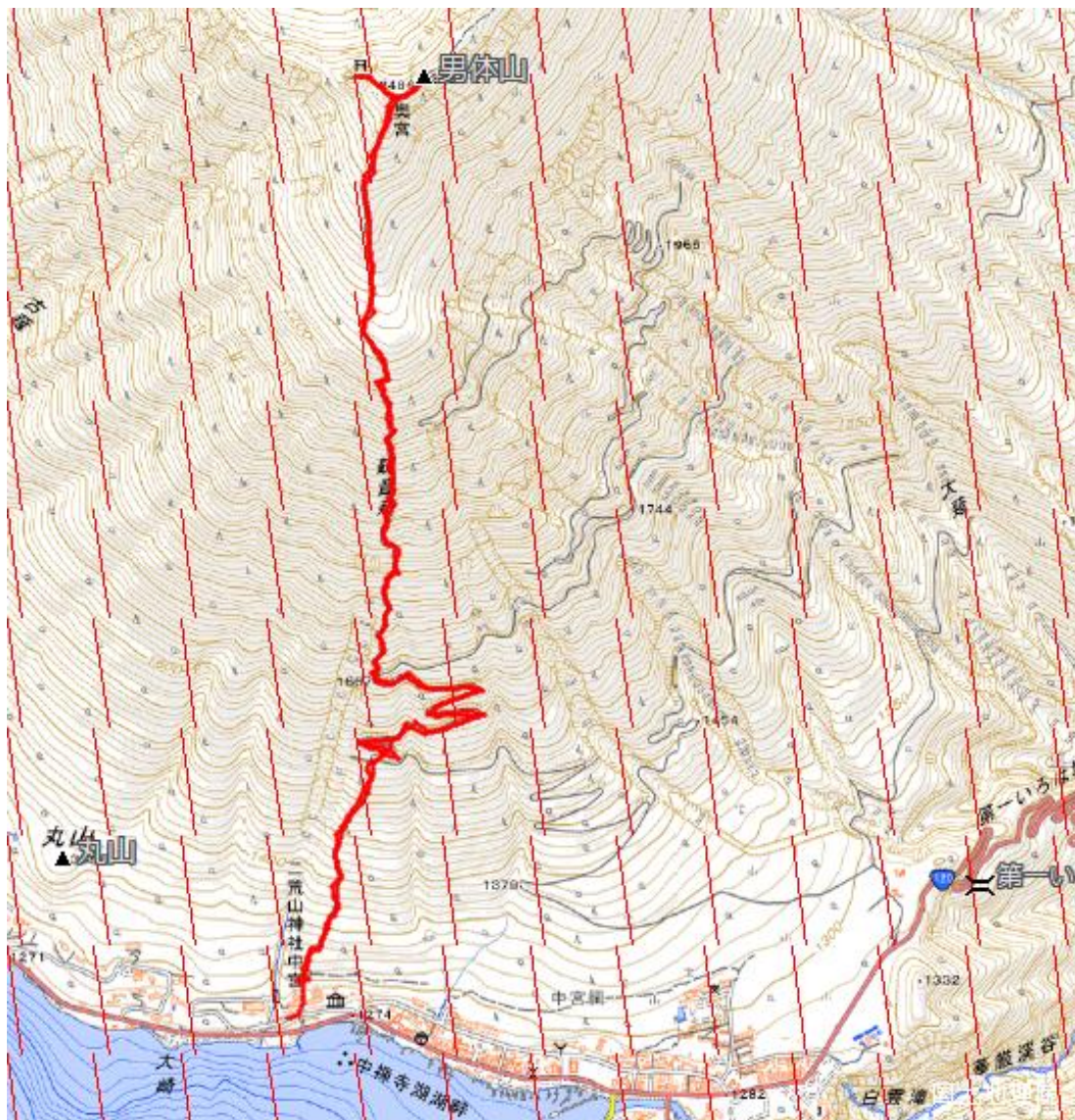


【コースタイム】

日光二荒山神社駐車場 7:50⇒4 合目 8:50⇒二荒山神社奥宮 11:20

男体山 11:25～12:08⇒4 合目 13:55⇒日光二荒山神社駐車場 14:46

(文責：永井)



2024 年第三回登山教室「安達太良山」①

2024 年6月 16 日(日)

参加者

- 1 班 種市、松本(幸)、吉田(揚)、青天目、伊藤(晴)、芳賀(恵)
- 2 班 松崎、鈴木(勤)、鈴木(彩)、秋葉、比佐
- 3 班 西村(里)、矢内、佐藤(敦)、佐藤(春)、山中
- 4 班 佐々木、大方、長谷川(公)、小松、小谷野、赤塚(将)

第三回目の教室は日本百名山の一つの安達太良山。いわき水石トンネル駐車場を6時に出発し、沼尻を目指す。沼尻スキー場内の一本松林間コース（子供のころ大好きだったコースのため、テンションが上がってしまった。）を抜けて沼尻登山口に到着。

8時スタート。安達太良山と言えば、森林限界の稜線というイメージだったのだが、歩けど歩けど樹林帯。かすかに芳る硫黄。遠くに鉄山避難小屋を見つけた時には歩行距離、時間の長さを目の当たりにし恐ろしくなった。

目紛しく変わる景色を堪能しながら夢中で歩くうちに、気がつけば樹林帯を抜けてついに稜線。山行前夜は稜線に出たらスキップでもしてしまうに違いない、なんて妄想をしていたのだが、実際は爆風のザレ場。とんでもなく怖かった。少しでも気を抜いたら滑り落ちそうな緊張感で、船明神山を經由し安達太良山頂手前で昼食を取り、一息ついたのち山頂へ。沼ノ平火口を眺めの気持ちのいい風と小走りしたい気持ちを抑えながら慎重に歩く。



鉄山避難小屋手前、登山道から少し逸れたところにある「西向き地蔵」を秋葉さんに案内していただく。

くろがね小屋にはかつて「嶽の湯」が栄えており、湯女たちの多くは越後からきていた。山の西方への思いを馳せていた湯女たちの御霊供養の石仏（諸説あり）とのことだ。鉄山避難小屋を過ぎ胎内岩あたりまでのザレ場、続くガレ場を過ぎると硫黄川沿いに出る。死亡事故があった場所なのでさっと通り過ぎるべきだが、どうしても湯に触りたい。

恐る恐る手を浸けてみるといい加減で癒され、すっきりとした気持ちで無事に下山。

山に触れ、景色を感じ、歴史、風俗を知る。土踏まずがべたんこになるほど疲れたけれど、楽しいが詰まった山行でした。

【コースタイム】

8:00 沼尻登山口→10:05 障子ヶ岩→11:40 船明神山→12:30 安達太良山→12:50 矢筈山
→13:30 鉄山→13:50 鉄山避難小屋→14:20 胎内岩→16:45 沼尻登山口

（文責：吉田(揚)）



2024 年 第三回登山教室山行「安達太良山」②

2024 年6月 16 日(日)

参加者：登山教室生 7 名 会員 15 名

雨のなか集合場所の水石トンネル駐車場を予定どおり 6 時に出発。

磐越自動車道いわき三和 IC から磐梯熱海 IC を走行、県道 24 号に入り途中で猿の家族を見つけ驚いたりして、沼尻登山口駐車場に到着。

現地は雨が降った様子もなく青空が少し見えるほど良い天候で、私たち 4 班 6 人は、沼尻登山口を 8 時に出発。

歩き始めすぐに、足元には山の花が数種類咲いており、名前を教えていただいたが覚えられず、これからの山行の楽しみのひとつにしようと思った。

白糸の滝、一切経山の噴煙などの自然景観を満喫しながら歩き続け、胎内コース分岐で障子ヶ岩方向に進んだ。

しばらくすると少し硫黄臭を感じ周辺を見渡すと、露出した山肌と沼ノ平火口原、そこを流れる白濁した硫黄川が流れ、一方では、吾妻連峰と秋元湖、そして磐梯山と猪苗代湖の素晴らしい風景が存在し、安達太良山の火山の怖さと山の美しさの二面性があることを知り、これが「自然」なのだと感慨深いものを感じた。

石筵分岐をとおり、安達太良山頂上を眺めながら、牛ノ背と呼ばれる尾根を縦走し、安達太良山山頂標識のところに到着。



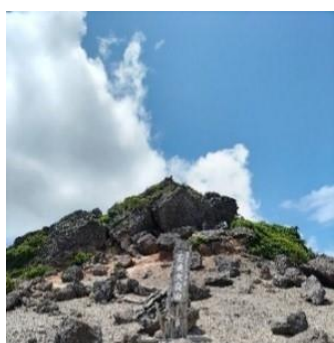
沼の平火口原

そこから別名「乳首山」と呼ばれる安達太良山頂上まで登り、360度大パノラマを満喫するとともに、頭上いっぱいに広がる「智恵子のほんとの空」に大きな感動。

安達太良山山頂



「智恵子のほんとの空」



安達太良山山頂標識付近で、昼食をとりしばらく休息をとった後、鉄山を目指し出発。

左に沼ノ平火口原の全景に圧倒されながら、馬ノ背と呼ばれるガレ場で滑りやすい尾根を注意深く歩き、岩壁を登り、鉄山に到着。

ここでの絶景ポイントで写真撮影し、

鉄山避難小屋に向った。途中、「西向き地蔵」に寄り、鉄山避難小屋に到着。山岳会メンバー全員の到着を待ち確認した後、順次下山開始。

下山は、傾斜のきつい下りが続き、胎内岩を潜り抜け、硫黄川沿いの尾根をもくもくと歩き、岳温泉源泉の水路を横切り、傾斜のきつい岩壁を登り胎内コース分岐にもどって朝通った道を下り、沼尻登山口駐車場に到着。

沼尻登山口駐車場を後にし、水石トンネル駐車場で責任者からの挨拶で解散となった。

いわきの朝の雨は嘘のような、安達太良山では風もない青空で素晴らしい天候に恵まれ、「自然」を全

【コースタイム】

(文責：大方)

